

研修報告 B班2グループ しゅわしゅわ

ブレインストーミングの手法を用い自由に意見を挙げ、挙げた各個の話題について討議をしていく中で、一つの流れに収束させていく手法を採った。

Theme1 「責任ある情報を公表するための職員の役割を考える」

我々のグループでは、現状において情報を公表する意義・目的は、法令によって義務付けられているために最低限行なっている“消極的公開”に留まっていると位置づけた。そこで今後は、ステークホルダーが求める形で情報を提供し、戦略的に大学をブランド化・イメージ化する“積極的公表”へとシフトを図っていく必要があると考えた。

具体的には、以下のようなものが挙げられた。

- ◆数値を分析し、他大学との比較の参考に利用できる情報を提供する。
(例：授業の受講者数を示し、授業内容の充実度・学生の満足度などの判断材料とさせる)
- ◆数値的情報に加え、その背後にある情報の公開を行う。
(例：退学者数だけではなく、退学の理由を示す)

以上のような形で、ユーザーのニーズに最適化した情報を発信することによって、大学を選択する基準を明確化して提示することを提案した。これらの流れは文部科学省の大学ポートレート構想が推進していくと考えられる。

さらに、積極的な情報公表を介して、大学は自己点検を行い、教育力の向上や機能の再構築を図り、大学ガバナンスの充実・強化につなげることが可能になる。

また、公表する情報は各部署が提供した資料を基に構成されるが、各部署の担当者が情報を公表するまでの過程に携わり、それぞれの情報のコンセンサスを図り、統一されたポリシーの下で公表されることが必要である。

これらの流れの中で、職員の果たす役割は、ユーザーのニーズを把握し、ニーズに適応した情報へと変換・加工することと、ポリシーに基づいた情報公表を行うことである。

Theme2 「学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割を考える」

まず、質的転換を図る必要性は、学士課程教育の現状の問題点にあると考えた。

問題点としては、以下のものが挙げられた。

- ◆就職活動の長期化・サークル活動等による学習時間の低下。
- ◆学生の基礎学力の低下。
- ◆教員から学生への一方通行の授業。
- ◆社会のニーズが変化しているのに、教育の質が対応していない。
- ◆海外の大学との学生獲得競争が過熱している。

以上の問題を解決し、質的転換を図るための具体的な対策を討議した。

- ◆授業を動画として配信し、出席できなかった学生への担保とする (①a)。
- ◆シラバスへ授業時間外の学習を記載する (②a)。
- ◆アクティブラーニングを積極的に導入する (②b)。
- ◆学生が講義テーマの設定をするなど、学生主体の授業を構成する。
- ◆カリキュラムマップを作成し、ディプロマ・ポリシーと組み合わせる (①b) ことによって、授業が目標に対してどのような位置にあるのかを把握し、学習の意欲向上につなげる。
- ◆「**インストラクショナル・デザイナー制度**」を導入し、授業の構築を補助できる職員を養成する。

これらを討議する中で、実際に授業を行うのは教員であるが、職員の果たすべき役割も大きいことを認識した。それは学生と教員の間に入り、学生のニーズに沿って学修効果を高めるシステム (①a, b) や授業 (②a, b) を構築する役割である。

また、それらの運用を円滑に行うため及び学修効果を高めていくために、頻繁にP D C Aサイクルを回し、常に質の向上を図っていくことも職員の重要な役割である。

Theme1, Theme2を通してのまとめ

Theme 2に挙げられているように、激しい社会変化の中で、学士課程教育も転換の必要性に迫られている。学生の自主性を育て、意欲的に学修に取り組む環境の整備が必要である。

また、教育改革の成果を Theme 1 で述べたように積極的に公表していくことで、大学は魅力発信と自己点検のサイクルを回すことにつながる。

厳しい大学間競争を生き残るために I C T、そして職員の果たす役割は今後ますます大きくなる。